



本校では「自己を見つめ他を思いやる心の育成」を教育目標として掲げ、「あいさつのある学校」「歌のある学校」「花のある学校」「掃除が光る学校」を目指して学校経営を進めています。また、これら4つの経営の柱は「担う校風」として毎年引き継がれ、主に生徒たちによる生徒会活動を通して具現されてきています。今回は、あいさつと合唱の取り組みについてご紹介します。

1月後半から毎週のように、高等学校や専門学校の入学者選抜試験が行われています。選抜試験に向けて面接練習を実施していますが、「肥田中学校の自慢できることは何ですか？」という質問に対し、ほとんどの生徒が「あいさつがよくできることです」と自信をもって答えます。

本校では生徒会執行部が年間を通じて玄関に立ち、率先して気持ちの良いあいさつを励行しています。教師や友達だけでなく、学校への来訪者や登下校で出会う地域の方にも、その場に即したあいさつができることは、本校のよき伝統であると思います。



合唱も年間を通して学年・学級で取り組んでいます。秋には「オータムコンサート」と称して岐阜高等学校合唱部をお招きし、県下随一の合唱を鑑賞しました。また12月には、保護者や地域の方を迎えて「合唱発表会」を開催し、自分たちがつくり上げてきた歌声を披露しました。

今は3月10日の卒業式に向けて、卒業生・在校生ともに歌声に磨きをかけています。毎朝始業前には、校舎内が各教室から聞こえてくる歌声であふれています。



- 住宅火災から大切な生命を守るために、
- 住宅用火災警報器を設置してください

消防本部・☎530123

「救える命を救いたい」 ～救急車の適正利用について～

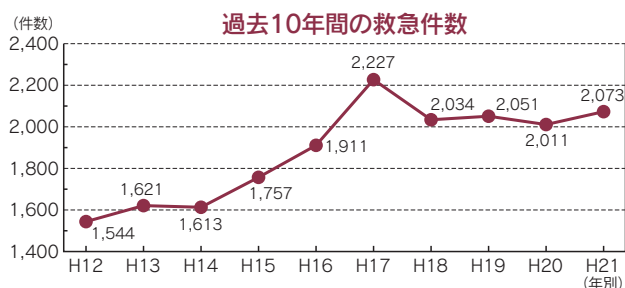
市消防本部では4隊の救急隊を配備し、24時間出動できる態勢で皆さんからの救急要請に対応しています。

近年、救急件数が増加しており、同じ区域で救急要請が重なった場合、ほかの区域から救急車が出動することになります。

○こんな理由で救急車を呼んでいませんか？

- ▷救急車でいった方が、優先的に診てもらえる
- ▷夜間・休日で、どこの病院へ行けばいいかわからない
- ▷タクシーだとお金が掛かる

こうした不適切な利用で、本当に救急車が必要な人への対応が遅れることになり、1分1秒を争う、救える命が救えなくなってしまう可能性があります。



救急車は、命にかかわるような病気やけがの人を一刻も早く病院に搬送する場合に利用するものです。救急車を利用する前に、自家用車やタクシーの利用ができないか、一度考えてみてください。

救急車を呼ぶほどでもないが、かかりつけの病院がない、診療してくれる病院がわからないなどの場合は、【土岐地域救急病院案内（☎53799）24時間受け付け】へお問い合わせください。